





寄贈

資料NO. 20

大正十四年

大正十四年

福井縣統計書

福井縣

昭和元年





緒 言

福井縣統計書ハ縣下行政其ノ他各般ノ統計ヲ蒐集シ既往現在ノ狀勢ヲ大觀セムカ爲編纂スル所ニシテ毎年之ヲ刊行シ今ヤ大正十四年ノ統計書ヲ出スニ至レリ本書編ヲ分ツコト四其ノ一ヲ土地戸口等。其ノ二ヲ學事。其ノ三ヲ産業。其ノ四ヲ警察衛生工場等トス各編収録スル所主トシテ郡市町村學校ノ報告及廳内ノ調査ヨリ之ヲ得又往徃關係官公署會社等ノ供給ニ求メタルモノアリ蓋シ學術ノ進歩世運ノ推移ニ因リ統計ノ用漸ク多キヲ加フ故ニ材料益正確調査愈精密ヲ期セサルヘカラス是ヲ以テ常ニ意ヲ之ニ注キ又新ニ収載シ或ハ表章方法ヲ更メタルモノ鮮シトセス然リト雖尙未タ遺憾ナキヲ得ス此等ハ漸チ以テ改善シ其ノ需要ニ適應セシムル所アラムトス

昭和二年四月

福井縣知事官房



大正十四年 福井縣統計書 第一編

凡 例

本編ハ大正十四年又ハ大正十四年度ノ事項ヲ掲載シタルモノナリ然レトモ其ノ以後ノ事項ニシテ調査ヲ了ヘタルモノハ之ヲ掲載シ又己ムヲ得タルモノハ大正十三年若ハ大正十三年度以前ノモノヲ掲ケタルモノアリ

編中何年度ト記スルモノハ其ノ年四月一日ヨリ翌年三月三十一日ニ至ル一箇年度何年末ト記スルモノハ其年十二月三十一日現在何年度末ト記スルハ翌年三月三十一日現在何年ト記スルモノハ其ノ年一月一日ヨリ十二月三十一日ニ至ル一曆年間何日ト記スルモノハ其ノ日現在ノ意ナリ

前數年ノ事項ヲ列載シタルモノハ本表ノ數字ト其ノ質ヲ同フシ即チ本表現在數ナルトキハ比較數亦現在數一年間若ハ一年度間ノ數ナルトキハ比較數亦一年間若ハ一年度間ノ數ナリ

數位ハ千位百萬位ニ「,」小數アルモノハ單位ニ「.」ヲ附シ不詳ノモノハ「?」一位ニ滿サルモノハ「0」全ク無キモノハ「|」ヲ填入セリ

金錢ニ關スルモノハ概ネ四捨五入ノ法ヲ用キテ圓位ニ止メタリ又往々外國ノ度量衡ヲ用キタルモノアリ彼我ノ對照ヲ示セハ次ノ如シ

哩 (マイル) 十四町四十五間八寸三分五厘

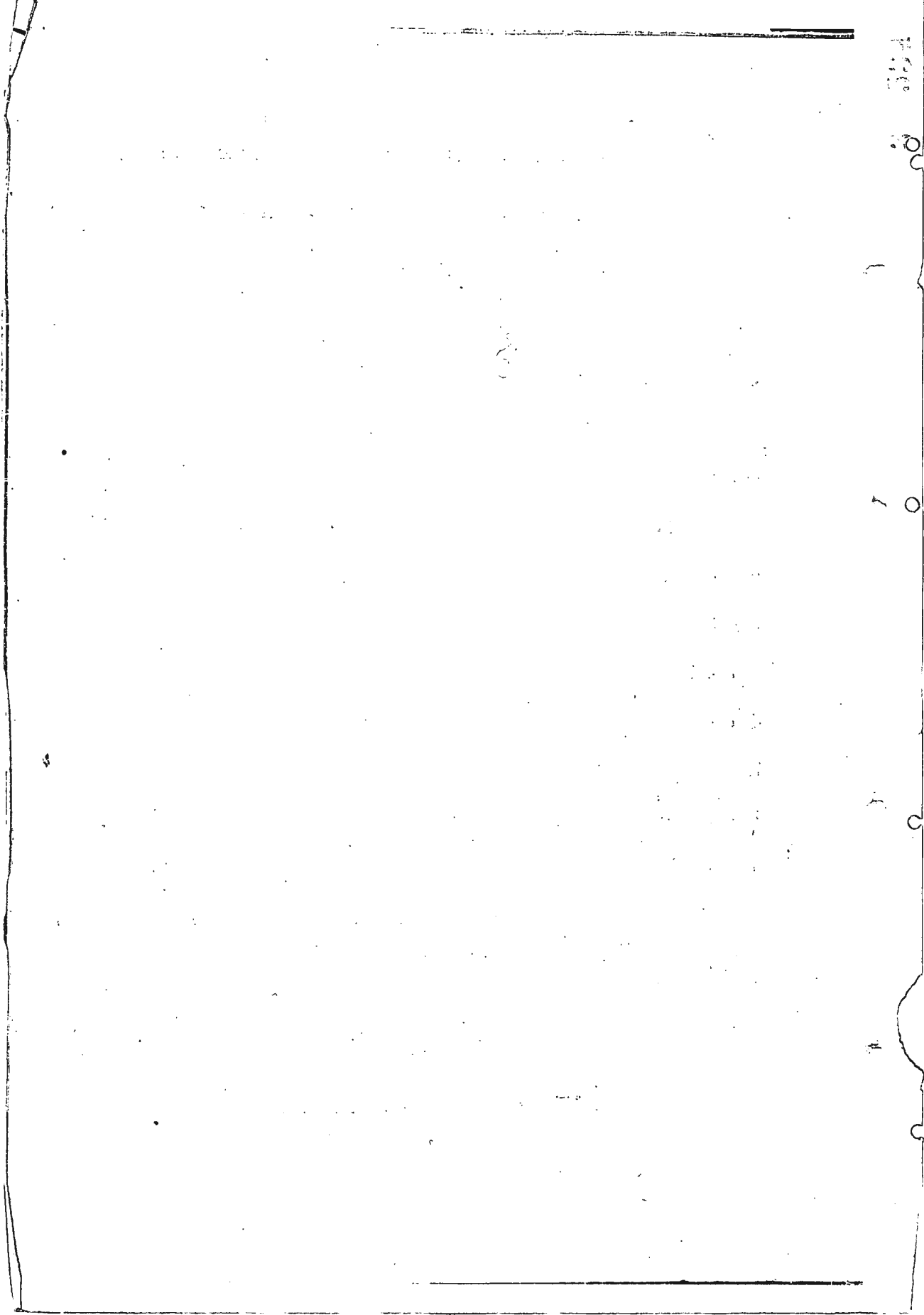
噸 (ト ン) 二百七十貫九百五十匁四

鎖 (チェーン) 十一間三寸八分五厘四四

精 (ミリメートル) 三厘三毛

米突 (メートル) 三尺三寸

瓦 (グラム) 二匁六分七厘



大正十四年 福井縣統計書目次

第一編 土地及戶口等

地 所

1	土地總段別	3
2	官有地	3
3	民有有租地段別及地價	4
4	民有免租年期地種別	5
5	民有免租及無租地段別	6
6	民有、有租、無租地及耕地、不耕地段別	7

氣 象

7	測候所	7
8	氣壓氣濕及濕度	7
9	平均氣壓	8
10	平均氣溫度	8
11	平均濕度	9
12	平均雨量	9
13	降水日數及降水量	9
14	降雪日數及期節	10
15	伏晴日數	10
16	曇天日數	10
17	暴風日數	11
18	霜降日數	11
19	最多風方位	11
20	風ノ速度	12
21	風ノ平均速度	12
22	沿海及河川流域雨量	12
23	地方暴風雨信號所	13
24	暴風雨標位置	13
25	測候用無線電信機	14
26	地震計	14
27	地震計ニ現ハレタル震動	14

戶 口

28	世帯及人口ノ一	15
29	世帯及人口ノ二(種類別)	15
30	配偶關係別人口(都市別)	15
31	五歲階級年齡及配偶關係別人口(總數)	16
32	構成人員別普通世帯(都市別)	16
33	推計人口	17
34	現在人口階級ニ分チタル市町村數及其人口	17
35	男性ニ依リ分チタル本籍人口及現在人口並現住戶數(全管)	18

36	男性ニ依リ分チタル本籍人口及現住人口並現住戶數(都市別)	18
37	人口動態總覽(現住地別)	18
38	男女及年齡階級別死亡(現住人)	19
39	男女及月別出生並死産(現住人)	19
40	現住人男女及原因別死亡中(分類)	19
41	年齡及身分別婚姻	20
42	夫妻相互ノ年齡別婚姻	21
43	夫妻相互ノ年齡別離婚	21
44	北海道移住者	22

交通及通信

45	官設鐵道線路及敷地	23
46	官設鐵道運輸	24
47	私設鐵道	25
48	私設鐵道運輸	25
49	郵 便	27
50	電 報	28
51	電信線路里程及電柱	28
52	電話加入區域及加入者數	28
53	市外電話線路里程及電柱	29
54	市内電話線路里程及電柱	29
55	電話料收入	30
56	瓦 斯	30
57	瓦斯製造及消費	30
58	瓦斯火口數及料金	31
59	積 氷	31
60	海岸延長及港灣	32
61	港灣ノ狀況	32
62	燈 塔	32
63	浮 標	32
64	船 船	33
65	港灣入港船舶ノ隻數及噸數	33
66	敦賀浦蘆斯德間汽船乘客人員	34

土 功

67	道路及橋梁	34
68	縣道路認定路線延長	35
69	道路新築修繕及橋梁新築架換修繕	41
70	道路延長坪數及橋梁個數	41
71	溜池及水路ノ修繕	41
72	溜池及水路	42

目 次

73	堤防ノ修繕	43
74	災害員數	43
75	災害損失價額	44
76	工事別土木費決算	44
77	工種別土木費決算	45

社寺及宗教

78	神社及神職	45
79	寺院及僧侶	46
80	天台宗教派別寺院及僧侶(郡市別)	46
81	真言宗教派別寺院及僧侶(郡市別)	47
82	淨土宗教派別寺院及僧侶(郡市別)	49
83	臨濟宗教派別寺院及僧侶(郡市別)	50
84	眞宗宗教派別寺院及僧侶(郡市別)	50
85	日蓮宗教派別寺院及僧侶(郡市別)	52
86	各宗教派別寺院及僧侶(郡市別)	52

教育慈惠及褒賞

87	行旅病人	53
88	行旅死亡人	53
89	濟貧恤窮	54
90	感化院ノ一(組織、所在、職員、經費等)	54
91	感化院ノ二(入院退院者年末現在)	54
92	感化院ノ三(身分年齢及保護者關係)	55
93	感化院ノ四(改換退院者ノ在院期間及方途)	55
94	救濟事業ノ一(貧兒)	55
95	救濟事業ノ二(施惠救養)	56
96	救濟事業ノ三(幼兒保育)	56
97	救濟事業ノ四(窮民救助)	56
98	救濟事業ノ五(職業紹介)	56
99	救濟事業ノ六(官立教育)	56
100	救濟事業ノ七(貧兒教育)	58
101	救濟事業ノ八(勸業技能教育)	59
102	救濟事業ノ九(免囚保護)	59
103	軍事救護	60
104	恩賜財團濟生會	60
105	篤行奇特者	60

兵 事

106	壯丁教育程度別	62
107	壯丁體格検査	62
108	壯丁身長	63
109	海軍志願兵	63
100	日本赤十字社員及年酬金	63
111	日本赤十字社職員	64
112	愛國婦人會	65

議 會

113	貴族院多額納稅議員互選者	66
114	衆議院議員選舉	68
115	縣會議員選舉	68
116	縣會及縣參事會	69
117	市會議員選舉	69
118	市會及市參事會	69
119	町村會	70

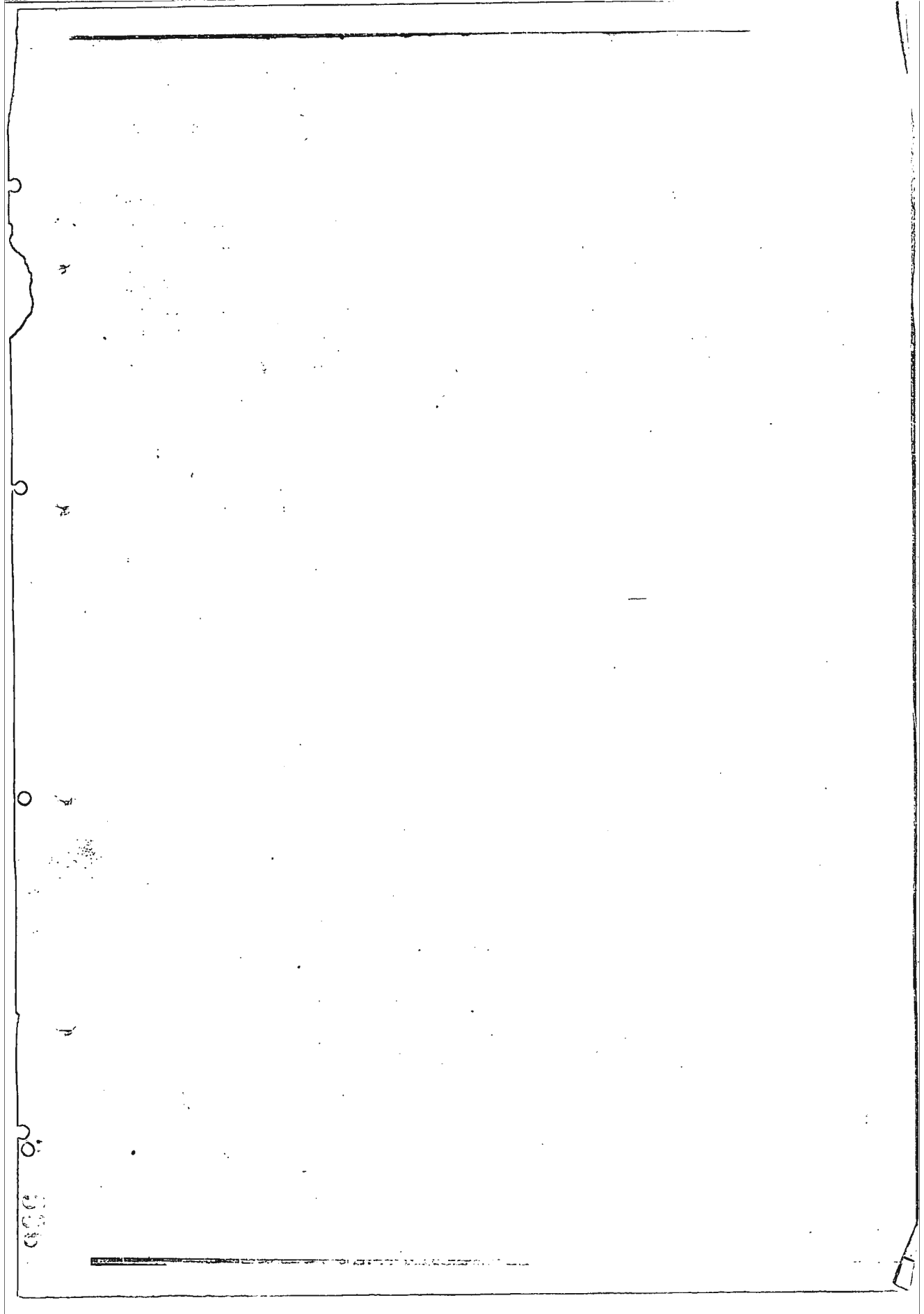
官 公 吏

120	縣廳各部分課	70
121	縣職員(課別)	70
122	休職官吏及吏員職員	72
123	市吏員	72
124	町村吏員	72

財 政

125	縣郡市町村水利土功組合歳入出	74
126	直轄稅貢捐(決算)	74
127	國 稅	75
128	地 租	76
129	所得稅	76
130	家督相續稅	80
131	遺產相續稅	80
132	醬油稅	82
133	第三種所得稅決定額種別	82
134	禮物贈與稅	84
135	國稅營業稅	84
136	酒造稅	86
137	國稅滯納人員及金額	88
138	租稅外國匯收入	88
139	國庫支出縣經費	90
140	縣歳入	92
141	縣歳出	92
142	縣 稅	94
143	縣稅滯納處分	95
144	郡役所經費	96
145	特別會計ニ屬スル縣歳入歳出	96
146	福井市歳入	97
147	福井市歳出	98
148	福井市稅	98
149	福井市瓦斯事業費歳入	100
150	福井市瓦斯事業費歳出	100
151	福井市水道市政費歳入	100
152	福井市水道市政費歳出	100

153	町村歳入	101	161	縣有財産ノ一	109
154	町村歳出	102	162	縣有財産ノ二	109
155	町村税	104	163	縣有財産ノ三	109
156	市町村税滞納処分	105	164	福井市基本財産	110
157	普通水利組合歳入	105	165	町村基本財産	110
158	普通水利組合歳出	106	166	令達發布件數	111
159	水害豫防組合歳入	107	167	收受發送文書件數	111
160	水害豫防組合歳出	107			



H 700
H 4
1 45

總 說

地 勢

本縣ハ北陸道ノ西南部ニ位シ越前國及若狹國ヲ管轄ス。

越前國

四面皆山ニ覆ヒ西北ノ一隅纔ニ海ニ面シ東南ハ美濃飛騨東北ハ加賀西南ハ若狹近江ニ連リ西北ハ海ニ接ス。山脈ハ加賀國白山ヨリ起リ別山ニ至リ岐レテ二派トナリ重疊起伏シテ國境ヲ限ル其ノ一道西南ニ繞ルモノハ足倉、大日、油坂、堀帽子、荒島、笹俣、宜南、冠嶽等ノ諸嶽ニシテ國ノ東南部ニ屹立シ極メテ峻秀ナリ、其ノ西北ニ趨ク一途ハ漸ク低クシテ四ツ塚、標ヶ嶽、兜山、鷲ヶ嶽、淨法寺、丈設、火燈、鉾ヶ嶽、高洞ヶ嶽等ノ諸山トナル 國見、櫻葉、越知等ノ諸山ハ國ノ西邊ニ屏峙シテ北海ヲ隔テリ其ノ他關ヶ嶽白帯、吉野ノ諸山脈國ノ中央ニ綿亘セリ。河川ハ頗ル多クシテ大抵東南ノ山間ヨリ發ス其ノ最大ナルモノヲ九頭龍川トシ足羽、日野ノ二川ニ至ク以上ヲ國ノ三大川ト稱シテ共ニ運漕船漕ニ便ナリ各地ノ諸流ヲ合セ三川會同シ一大川トナリテ西北流シテ三國ニ至リ海ニ入ル。土壤ハ概シテ其色薄黒其ノ質中ノ上全國ヲ三分シテ山嶽其ノ二ニ居リ平地其ノ一ニ居ル然レトモ地味膏腴ニシテ五穀桑茶等ニ宜シ。

若狹國

東ヨリ南ニ廻リ西ニ至ル連山關國ヲ圍繞シテ北一方ハ海ニ臨ム東ハ越前南ハ近江西南ハ丹波西ハ丹後ニ隣リ北ハ海ニ接ス、山脈ハ東南ヨリ起リ國境ヲ塊シ西北ハ海ニ至リテ盡ク其ノ最も高峻ナルモノヲ三十三間、多太、後瀨、背葉ノ諸山トス、其ノ他國中ニ連亘スル嶽巒多シト雖皆峻嶮ナラス、河川ハ其ノ源近江國高島郡ヨリ出ツルモノヲ北川ト云ヒ丹波ノ國境ヨリ發スルモノヲ南川ト云フ之ヲ國ノ二大川ト稱ス各地ノ小流ヲ併セ小瀆ニ至リ海ニ入ル。之ニ亞クモノヲ耳川、佐分利川ノ二流トス共ニ諸流ヲ併セ北海ニ注ク土壤ハ概シテ其ノ色薄赤其ノ質中ノ上國中ヲ三分シ二分ハ山地ニシテ瘠瘠ナルモノ一分ハ平野ナリ五穀桑茶共ニ生育セサルナシ。

土 地

本縣ハ極南若狹國遠敷郡知三村島度野北緯三十五度十八分四十五秒ヨリ極北越前國坂井郡北濱村濱坂北緯三十九度十六分三十八秒ニ至リ、極西若狹國大飯郡鄉村上柳東經百三十五度二十五分十七秒ニ起リ極東越前國大野郡石徹白村石徹白東經百三十六度四十六分三十秒ニ終ル、間ニ於テ帝國本州ノ腰部ニ當リ西南ヨリ東北ニ延テ横ヘタルカ如キ地形ヲ爲シ面積二百五十九方里餘ヲ有シ廣袤全國四十六府縣中第三十八位ニシテ滋賀縣(琵琶湖ヲ含ム)ニ比シ狹ク埼玉縣ニ比シ稍大ナリ。之ヲ郡市別ニ觀ルトキハ最大ナルモノ大野郡ノ六十八方里ニシテ之ニ亞クハ南條郡ノ三十三方里、今立郡ノ三十一方里、丹生郡ノ二十八方里、坂井郡二十三方里、遠敷郡ノ二十三方里トシテ三方郡ノ十四方

里、敦賀郡ハ十三方里、足羽郡ハ九方里、吉世郡ハ八方里、飯郡ハ八方里ニシテ福井市ハ僅カニ一方里ニ過キス。

氣 象

本縣ハ東南西皆山嶽重疊連互シ北日本海ニ面スルヲ以テ表日本ノ諸縣ニ比スレバ雨量多キヲ常トス。殊ニ晩秋ノ候寒冷漸ク加ハリ大野郡其ノ他ノ山間ニ於テハ初冬忽チ降雪ヲ見、極寒ノ節到レハ積雪六七尺乃至丈餘ニ及ビ交通ヲ杜絶スルコト稀ナラス福井市ニ於テ尚且積雪三四尺ニ達シ海濱亦尺餘ニ上ルコトアリ。氣温ハ嚴冬ノ候氷点下ニ降ルコト往々アルモ之ニ反シテ夏時炎熱甚シク三十六、七度ヲ超スルコト屢ナリト雖モ尚概觀シテ全縣ヲ通シテ氣候温和ナリト稱スルヲ得ベシ。

戶 口

人口 本縣一市十一郡ノ面積ハ二百五十九方里ニシテ世帯總數ハ 124,996人口 595,123アリ而シテ福井市ノ世帯ハ14,094人口ハ 59,943 ナルヲ以テ世帯ノ一割一分人口ノ一割ハ市部ニ他ハ郡部ニアリ。

人口ノ密度ハ一方里 2,298人ニシテ全國平均一方里 2,417人ヨリ稍疎ナリ。各郡中密度最も高キハ吉田ノ4,947坂井ノ4,149足羽ノ3,948之ニ亞キ丹生、敦賀、遠敷、大飯ノ四郡ハ2,000人以上大野、今立、南條、三方ノ四郡ハ何レモ 1,000人以上ナリ總人口 595,123人中男ハ 290,268人女ハ304,855人ニシテ女 100ニ付男95ニ賤リ女ノ超過ナリ。各郡中男ノ多キハ第一回國勢調査ノ際ハ獨リ丹生ノ女100ニ付男104アリシモ大正十四年調査ニ於テハ各郡ヲ通シテ男ヨリモ女ハ何レモ超過ナリ世帯 世帯總數ハ 125,766 中普通世帯 124,996ニ屬スル人員 587,018 準世帯 770 之ニ屬スル人員 8,105ニシテ普通世帯ハ總世帯ノ九割九分人口ノ九割九分ヲ占ム、而シテ一世界平均人員ハ普通世帯 4人 70 準世帯 23人 51 兩者ヲ通シテ 4人 73 ナリ。

配偶關係

總人口 595,123 中未婚ハ略其ノ半ヲ占ム 292,457アリ有配偶之ニ亞キ 242,254ヲ算シ總人口ノ 2割5分ニ當リ死別 53,026 離別 7,382ナリ。而シテ各部男女ノ割合ヲ見ルニ未婚ニ於テ男多キ外他ノ三者ハ孰レモ女多ク殊ニ死別ニ於テ男ニ3倍離別ニ於テ男ニ倍シテ居ル。次ニ可婚年齡ト目スヘキ十五歳以上ノ者 373,221ノ配偶關係ヲ見ルニ未婚 70,589 有配偶 242,226 死別 53,026 離別 7,380ニシテ未婚 1 既婚 4ノ割合ヲアル更ニ之ヲ男女各別ニスル時ハ男ハ未婚 1 既婚 3女ハ未婚 1 既婚 6トナル。

以上ハ大正十四年國勢調査ノ結果ナルモ之ヲ大正九年ノ國勢調査ノ結果ニ比較スレバ普通世帯ニ於テ 899ヲ増シタルモ準世帯ニ於テ 15ヲ減ル人口ニ於テ 1,600ヲ減シタルノ外人口ノ密度一世帯ノ平均人員及配偶關係ノ構成等ニ於テハ殆レト前同様ノ現象ナリ。

財 政

縣財政ハ明治十四年即チ舊縣當時ニ在リテハ、僅カニ二十八萬三千餘圓ニ過キサリシガ、日清戰役以來、事業ノ勃興ト法令ノ結果ニ依ル等漸ク經濟ノ膨脹ヲ來シ、明治二十九年度ニ至リテハ約三倍ニ上リ、加フルニ水害復舊工事ニ依ル縣價償還及九頭龍川改修事業ニ對スル支出等ニ依リ、年々縣費ヲ増嵩シタリ、此ニ於テ縣民ノ負擔輕減ヲ圖ルノ必要ニ迫リ、明治三十五年度及同三十七年度ノ兩回ニ亙リ極力財政ノ整理ヲ斷行シタルモ其ノ後戰後ノ經營ト兩運ノ進歩ニ伴ヒ財政ノ膨大ヲ來シ、加フルニ郡制ノ廢止ニ依リ自然縣事業ノ増加ヲ來シ、縣費ハ愈々膨脹セシラ以テ、大正十二年度政府ノ方針ヲ依テ一大整理方針ヲ樹テ事業費、事務費ヲ通シテ極力整理緊縮ヲ敢行シ、爾來其ノ方針ヲ以テ進ミタルモ、法令ニ依ルモノ、繼續事業ニシテ已ムヲ得サルモノ等アルニ依リ大正十五年度ニ於テハ猶且四百八拾六萬圓餘ニ上レリ。

市町村財政

市町村財政ノ狀況ヲ見ルニ大正十五年度ニ於テ市費百貳拾萬九千圓、町村費四百七拾七萬壹千圓ニシテ之ヲ市町村制實施ノ翌年タル明治二十三年度ニ比スルニキハ、市町村ヲ通シテ實ニ約二十倍ニ相當セリ、縣ハ不斷設備方針ヲ以テ之ヲ本邦所アリシモ、社會進運ニ伴ヒ、教育、産業、衛生、其ノ他各般ノ施設ニ依リ自然膨脹ヲ餘儀ナクセシメタルニ外ナラス而シテ本縣ハ直接間接稅負擔額輕キヲ以テ縣稅戶數別及同附加稅比較的輕ク、戶數割ノ如キ一戶當七圓六拾貳錢八厘餘ニシテ全國中上位ニ在リ、同附加稅ハ一戶當平均貳拾壹圓參拾六錢五厘ナリトス。

交 通

交通ノ狀況ハ國道、縣道ノ總延長四百四十七里餘ニシテ面積ニ比シ少シトセザルモ、山地割合ニ多キ關係上其ノ一部ハ險路峻ニシテ且少シク幅員狹少ナルヲ以テ毎年比較的多額ノ經費ヲ投シテ之カ改良ニ努ム。鐵道ノ總延長百五十五哩ニ達シ、北陸本線、小浜線及三國線ノ外ニ六ノ私設鐵道アリ、更ニ計劃中ニ屬スル越前線及三私設鐵道ノ開通ヲ見ハ交通運輸上裨益スル所多大ナルヘシ。

港 灣

敦賀港

港灣ノ修築

本港ハ大正二年港灣改良工事完了後更ニ大正十一年度ヨリ同十八年度ニ至ル八ヶ年ノ繼續事業ニテ港灣修築計劃ナリ國費三百四十一萬圓ヲ以テ大正十一年九月十四日之カ起工式ヲ舉行セリ而シテ本計劃ノ新タニ延長約四百間ノ架船埠壁ト約三百九十間ノ臨岸トヲ得ルモノニシテ之カ竣工ノ曉ニハ一ヶ年約五十萬噸ノ貨物ヲ取扱ヒ得ヘシ。

水深ノ變化

灣内波瀾ニシテ水碓メテ深ク暗礁砂洲等ノ障礙物ナク隨ツテ大船巨艇ト雖運航自在且ツ堅固安全ニシテ船舶集合地点ハ臨岸ヨ

リ約二百米突乃至二百七十米突ノ所トス。潮位及潮流ハ先ツ等二尺位ヨリ高迄トス。

港灣ノ沿革

敦賀港ハ古來江州濃美並ニ近畿地方トノ水陸連絡ノ要港タルノミナラス北海道ニ對スル輸出入貨物ノ集散地トシテ夙ニ世ニ知ラレタリ且ツ地理的關係上對外的ニハ遠ク神功皇后三韓出師ノ當時其ノ策源地タリシ所ニシテ其ノ後或ハ外國使臣來朝ノ應接ノ地トナリ又ハ北陸地方ノ政事軍事上ノ中心トナリシ歴史ヲ有ス。故ニ維新以後政府ハ夙ニ本港ノ開發ニ意ヲ用ヒ明治十四年灣口ニ燈臺ヲ新設シテ航路ノ安全ヲ計リ又明治十七年敦賀長濱間ノ鐵道ヲ布設シテ近畿地方トノ交通ヲ便ナラシメ續テ明治二十九年十月當港ヲ特別輸出港ト指定シ同三十二年七月開港令ノ公布セララルルヤ當港ヲ亦其ノ一ニ加ヘタリ其ノ後西伯利亞鐵道ノ全通スルニ及ヒテ歐人ノ東洋ニ來ラントスルモノ多クハ此ノ便ニ依ルヲ以テ旅客ノ往來日ヲ追フテ積案トナリ貨物ノ集散モ隨テ増加スルニ至レリ爾來政府ハ本港修築ノ必要ヲ賦スルニ至リテ第二十五議會ノ協賛ヲ經テ明治四十二年以降四ヶ年ノ繼續事業トシテ工費八十萬圓ヲ以テ第一期修築工事ヲ起シ該工事ハ大正二年度ニ於テ竣功セシモ間モナク歐州戰爭勃發シタル結果本港ハ我國ニ於ケル軍事上將又經濟上愈々重要ノ地位ヲ占ムルニ至リシノミナラス貨物激增シ第一期修築工事ノミニテハ設備ノ不足ヲ告グルニ至レルヲ以テ更ニ第二期修築工事ノ必要ヲ認メ第四十五議會ノ協賛ヲ經テ茲ニ大正十一年度ヨリ之レカ工事ヲ起スニ至レルモ大正十二年九月一日ノ關東地方震災ノタメ八ヶ年繼續事業ヲ一ヶ年延期セララルル止ムナキニ至レリ。歐洲大戰中非常ナル發達ヲ遂ケタル我對外貿易モ戰後ノ財界變動ニ因リ漸次衰頹ヲ來シ其ノ後甚シキ激減ヲ示スニ至レリ。而シテ尙當港ヨリ輸出スル主ナルモノハ雜貨及繩纜類トス雜貨ノ鐵道運ニヨリ京阪地方ヨリ輸送シ來リ北海道、北鮮(元山、城津、清津方面) 露國亞細亞及支那方面ニ繩纜類ハ兵庫、滋賀、三重ノ各縣ヨリ産スルモノ及郡内産ヲ併セ北海道方面ニ輸出セラル。輸入ノ重ナルモノノ内石炭ハ北海道及九州ヨリ輸入シ多クハ鐵道用炭トシテ其ノ他ハ本縣下及滋賀縣下ノ工業用炭トシテ消化スルモノトス尙豆粒、雜穀、魚肥料類ハ北海道、朝鮮、浦鹽方面ヨリ縣内ハ勿論近江、京阪神及名古屋中央線一圓ニ輸出セラルル狀況ニアリ。